

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	生野区
学校名	翼東小学校
学校長名	宮下 敬史

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査内容

#### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

#### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

### 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・翼東小学校では、第6学年 92名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科、算数科、理科ともに全国平均・大阪市平均点を下回る結果となった。全体の概要からわかるように、国語科では、全国平均点66.8、大阪市平均点65、本校は61点と約5ポイント弱低かった。算数科では、全国・大阪市共に平均点58.0に対し、本校は47点と10ポイント以上平均点が低かった。理科では、全国平均点57.1、大阪市平均点55、本校は47点と約10ポイント弱低かった。しかし、昨年度から本校の課題として取り上げていた平均無解答率は、国語・算数・理科ともに平均無解答率が全国平均より低い数値となった。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】学習指導要領の内容について、「情報の扱い方に関する事項」のポイントが全国・大阪平均から見ても数値が低かった。問題文からの読み取りに苦手意識のある児童が多いことが依然として課題として挙げられる。「読みこと・書くこと・話すこと」に関しては、正答率が全国・大阪市平均との差が前回よりも少なくなってきた。国語科の学習に苦手意識のある児童に対してサポートしていくなど、本校で取り組んでいる学力向上支援チーム事業の活用の成果が少しずつ表れて基礎学力の定着が見られる。授業での音読や物語文の登場人物の心情などを考え、読み取ることで読み・書きの成果が表れている。

【算数】平均正答率が全国・大阪市平均との差が10ポイント以上と大きくなかった。要因は、「図形」の領域である。平均回答率が全国・大阪市よりも14ポイント以上も差があり、前回の調査でもこの領域は数値が低かった。またデータの活用の分野では依然として全国との差が10ポイント以上ある。

ICT機器の使って一人一台端末を活用し、図形など視覚からの問題を捉えやすくしたり。デジタル教科書を使って、児童の図形に対する理解度を高める内容を取り組んでいく。また、学力向上支援チームの一環である放課後学習教室や居残り学習で、前学年の内容を復習したり、計算力を高める取り組みを行ったりして、基礎学力の定着を図る。その結果、計算力は向上してきている。今後も算数の授業の進め方について研究を深め、授業改善に取り組んでいく。

【理科】理科も算数科同様に平均正答率が全国・大阪市よりも10ポイントほど差が低い数値となった。特に「エネルギー」を柱とする領域が最も差があった。実験することや観察することには意欲的に参加する児童が多く見られるが、テストになると書けない児童は少なくはない。実験等で得た知識や理解を十分に発揮できるよう手立てを考えいく。研修や研究で学んだ、自ら進んで取り組んでいく学習内容を取り入れていく。

質問調査より

「自分によいところはありますか」や「将来の夢や目標を持っていますか」の質問事項では、肯定的な回答が大阪市・全国平均より高かった。スポーツや自分の得意分野に取り組む児童が多く、将来の夢に向かって努力する姿が学校でも見られる。将来の夢を自分の言葉にして話す児童も少なくない。自分自身が努力することで肯定感が高くなっていると感じる。また、本校独自で取り組んでいるPBS(ポジティブ行動支援)の効果もあり、自己肯定感が高くなり「自分によいところがある」と答えた児童が多くなったと思われる。

学校質問では、一人一台端末の活用について、今後も研修や研究を重ね、子どもたちの学習に役立つ方法を模索していく。また、今後は家庭学習にも一人一台端末を取り入れて学習の

課題や宿題等を児童に、保護者への啓発に努めていく。

## 今後の取組(アクションプラン)

学習面では、今年度も算数を研究教科として授業研究を行ってきた。課題解決のための見通しをもち、自力で課題解決できるように授業改善に取り組んでいる。また、考えたことをペアやグループで交流し、考えを深めるようにしている。今後も引き続き算数科の授業力の向上を図っていく。学力に課題のある児童に対しては、放課後学習教室の活用や学力向上学びサポートによる学習のつまづきをサポートして成果につなげていきたい。また、苦手意識のある文章問題や記述式の問題などプリント学習を使って繰り返しの学習を取り入れていく。

生活面では、子どもの自尊感情を高める活動を今後も継続していく。そのためにはポジティブ行動支援の活用を深め積極的に取り組んでいく。

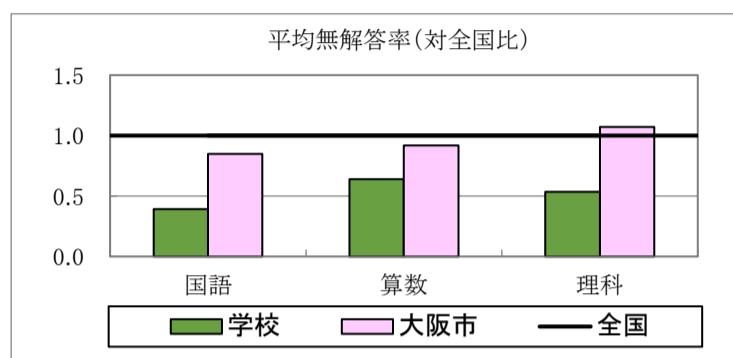
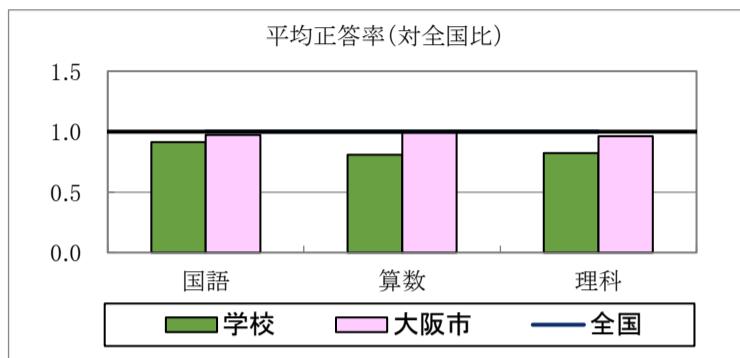
## 【 全体の概要 】

### 平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	61	47	47
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

### 平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	1.3	2.3	1.5
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

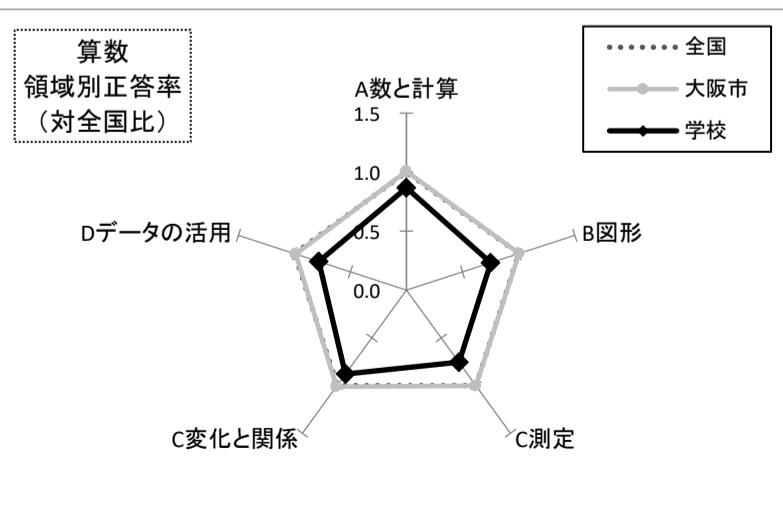
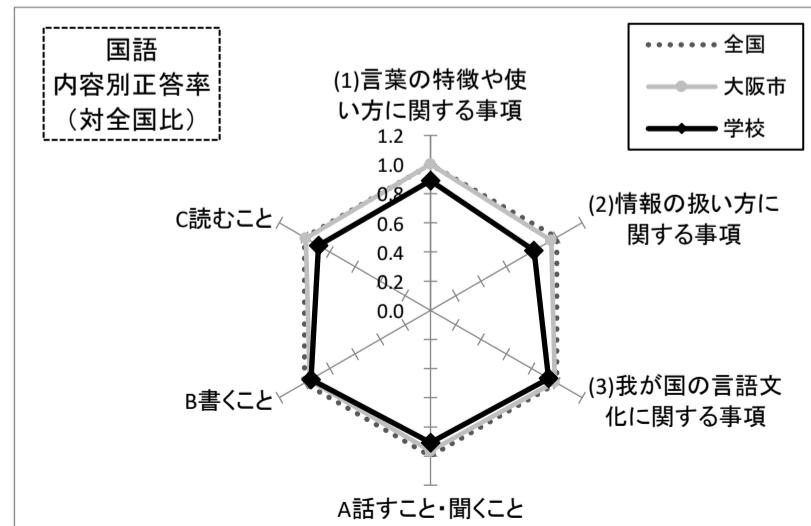
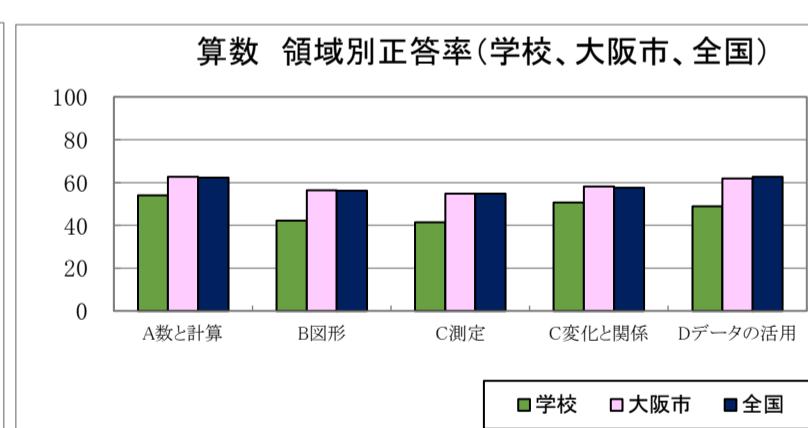
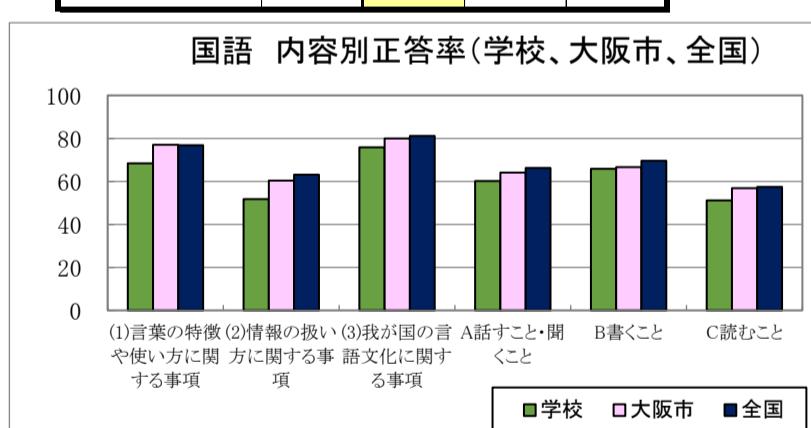


## 【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	68.4	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	51.7	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	75.9	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	60.2	64.0	66.3
B 書くこと	3	65.9	66.7	69.5
C 読むこと	4	51.1	56.9	57.5

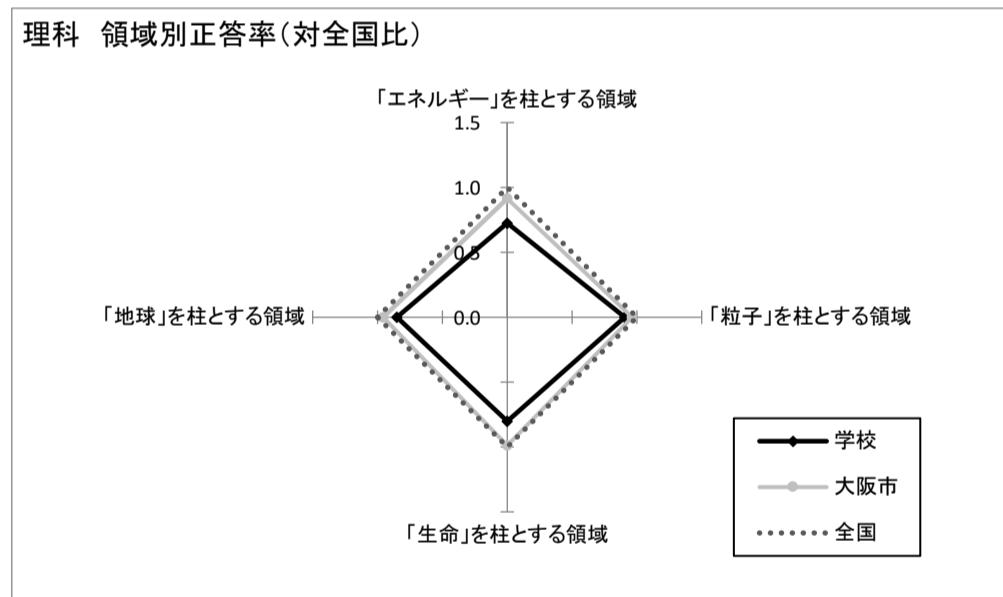
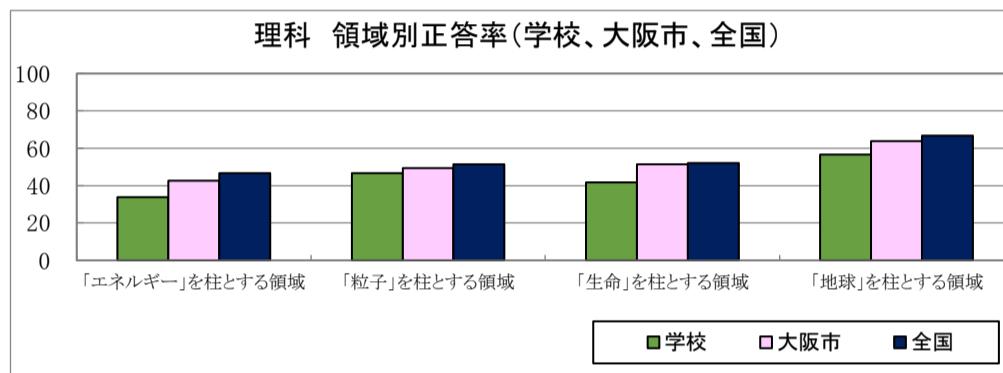
## 【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	54.0	62.7	62.3
B 図形	4	42.2	56.4	56.2
C 測定	2	41.4	54.9	54.8
C 変化と関係	3	50.6	58.2	57.5
D データの活用	5	49.0	61.9	62.6



## 【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	33.9	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	46.6	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	41.7	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	56.7	63.8	66.7



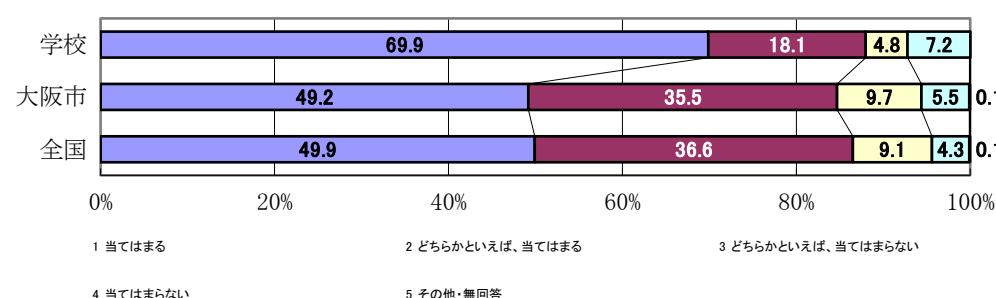
## 児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

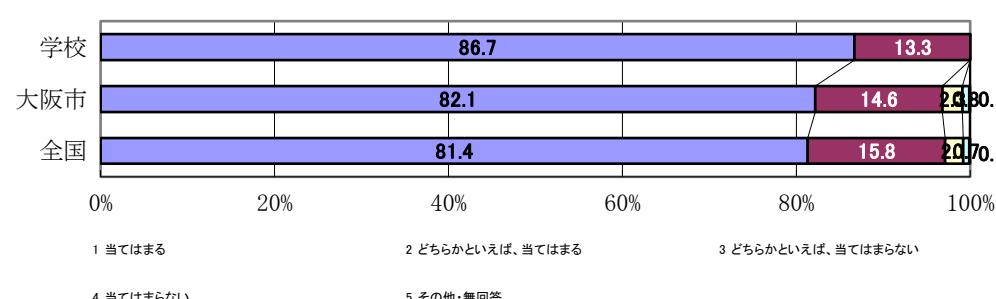
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



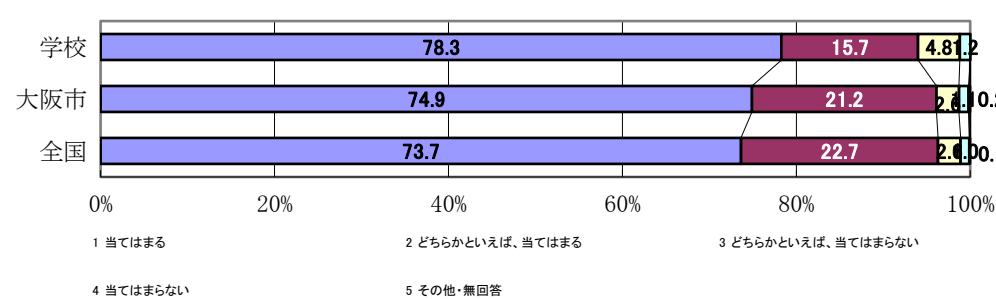
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



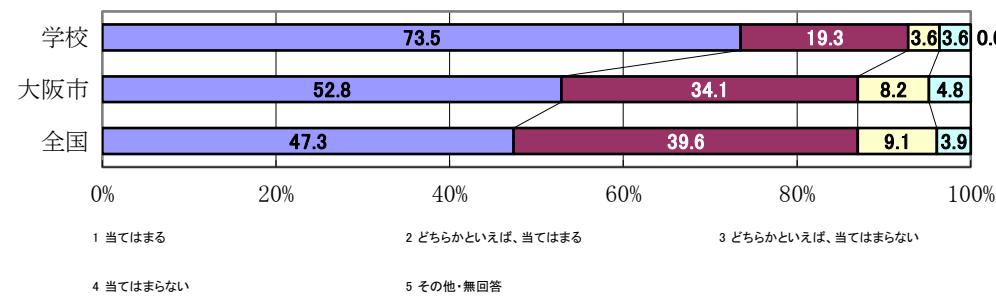
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



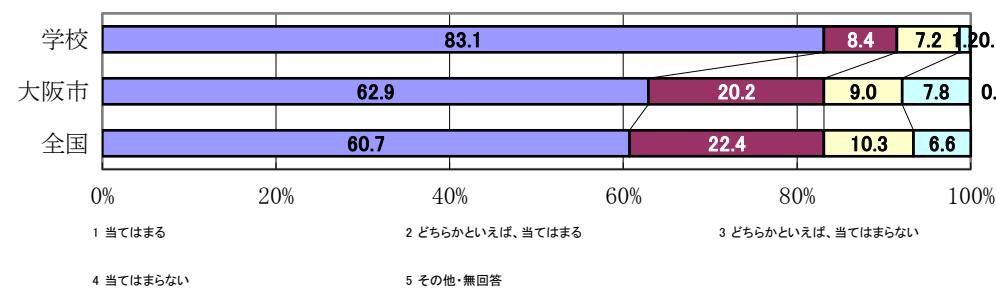
5

自分には、よいところがあると思いますか



7

将来の夢や目標を持っていますか



## 学校質問より

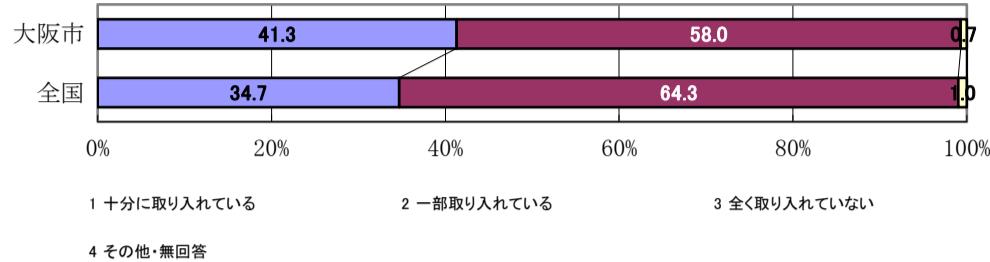
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号  
質問事項

13

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

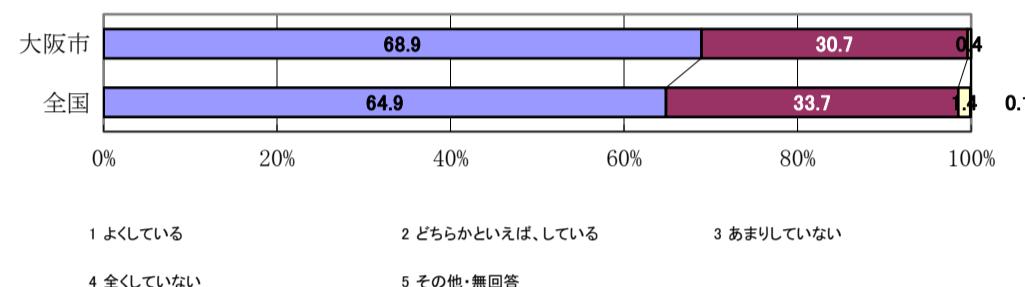
学校 「一部取り入れている」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

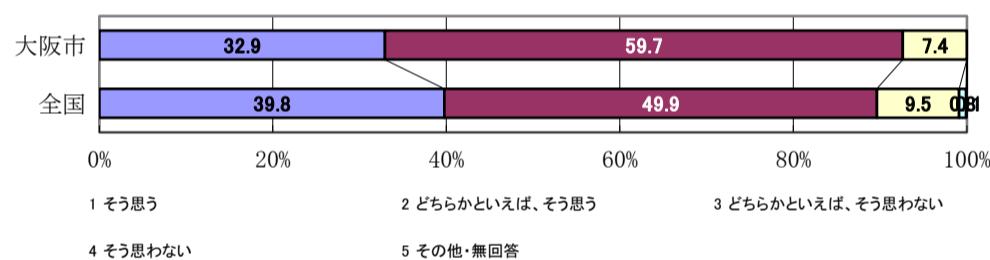
学校 「どちらかといえば、している」を選択



57

コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか

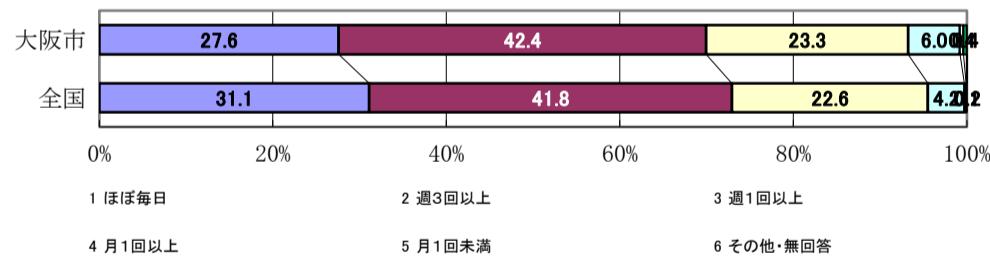
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



59

調査対象学年の児童が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「週3回以上」を選択



60

調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「週3回以上」を選択

